

速読講師が選ぶ！
人生を変える100冊の本



「人生を変えるには、二つの出会いが必要である。

一つはメンター（師匠）との出会い。

もう一つは良書との出会いである。」

これは常々、私たちがこれまで指導してきた方々に、お伝えしてきた言葉です。

自分の人生をもっと良くしたいと願った時に、必要になってくるのは、偉大なる先人の力です。

今のあなたの問題はすでに多くの偉大な先人が通ってきた道です。

あなたの人生をよりよく好転させるためには、よき人との出会いは必要不可欠です。

ただ、人との出会いは運もあります。

なかなか自分の身の回りにはメンター（師匠）となるような人はいないかもしれません。

そんな時に重要になってくるのが、よき本との出会いなのです。

本は誰でも手に入れることができます。

なかなか直接、指導を受けることができないような人でも本であれば、すぐに学ぶことができます。

良書には著者の知識や経験が凝縮されています。

その凝縮された知識や経験を一粒残らずあなたの知識に加えることができるのです。

ただ、現代は出版過多の時代でもあります。

多くの本が日々、出版されています。

今、日本では年間に約7万冊の本が出版されているそうです。

いくら私たちが速読を極めたとしても、7万冊の本を読むことはできません。

そこで、私たち速読の学校の講師陣が、これまでに読んできた本の中で、本当に役立つ本を100冊に厳選してご紹介することにしました。

私たちの人生を変えるターニングポイントになった本を100冊に厳選して紹介しています。

選考はとても大変でした。

いざ選ぶとなると、あの本も良い、この本も良い、ということで200冊近くの本が最終選考に残りました。

その中から、本当に人生に役立つ本を厳選して、100冊にしぼりました。

人生で悩んだときや困難にぶつかったときにはこの100冊の本が必ずあなたの人生をサポートしてくれるでしょう。

あなたの人生をより豊かなものにする礎として100冊の本を活用していただければと思います。

100冊の本のリストは選びやすいように、

ジャンル、タイトル、著者名、内容、そしてAmazonのページを掲載しています。

掲載順位に特に意味はありません。

興味のある本、気になった本から読んでいってください。

ぜひ、これらの本があなたの人生のお役に立てればと思います。

それでは、素晴らしい良書の世界へ、行ってらっしゃい！

速読の学校 講師&スタッフ一同



《 目次 》

1. 脳力開発のおすすめ本 P6
2. 人間関係のおすすめ本 P10
3. コミュニケーションのおすすめ本 P13
4. 自己啓発のおすすめ本 P16
5. エッセイのおすすめ本 P19
6. 健康のおすすめ本 P23
7. 哲学のおすすめ本 P27
8. 成功法則のおすすめ本 P31
9. 資産形成のおすすめ本 P35
10. ビジネス書のおすすめ本 P39
11. 小説のおすすめ本 P44
12. 経営者本のおすすめ本 P50
13. 企業経営のおすすめ本 P53
14. ストーリーテリングのおすすめ本 P58
15. マーケティングのおすすめ本 P59
16. プレゼンテーションのおすすめ本 P62

1. 脳力開発のおすすめ本

『奇跡の脳』

著者：ジル・ボルト テイラー

内容：

統合失調症の兄を持った「わたし」は、小さい頃から脳に興味を抱く。同じものを見て、どうしておにいちゃんとわたしは反応が違うの？努力の末に脳科学の専門家となり、ハーバードの第一線で活躍するわたしは、誰よりも脳について知っているはず、だった。1996年のある日、37歳で脳卒中に襲われ、生活は一変する。左脳の機能が崩壊し、言葉や身体感覚だけでなく、世界の受け止め方までも変わったのだ。体力の補強、言語機能を脅かす手術、8年間に及んだリハビリ。そこでわたしが得たものとは、何だったのか。脳卒中になりうるすべての人に一。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/vUUOSK>

『知のソフトウェア』

著者：立花隆

内容：

新聞・雑誌・書物から個人や組織にいたるまで、多様なメディアが発信する膨大な情報を、いかに収集・整理・活用するのか？

情報の真偽を吟味・加工し、ゆたかな知的生産を行うには、何が必要か？

ジャーナリズムの最前線で活躍をつづける著者が、体験から編みだした考え方や技法の数々を公開しています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tNn9IP>

『アイデアのつくり方』

著者：ジェームス・W・ヤング

内容：

60分で読めるけれど一生あなたを離さない本。

《アイデアをどうやって手に入れるか》という質問への解答がここにあります。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sFUbn6>

『脳にいいことだけをやりなさい』

著者：マーシー・シャイモフ・茂木健一郎

内容：

「仕事も人間関係も日常生活すべてが好転した!」「こんなに役に立つ本は今までなかった!」という読者の声が続々——全米大ベストセラーの日本版が脳科学者・茂木健一郎訳でついに完成。「日常生活、仕事、勉強——どんなときも脳のすごい力を引き出す方法」、「脳の『毒』になること、脳の『良薬』になること」、「3日続ければタフな脳ができ上がるルール」……この本を読めば、脳の回路がうまく回りだし、人生すべてにポジティブな結果を残すことができます!

詳細はこちら→ <http://amzn.to/vzYa8h>

『コリン・ローズの加速学習法実践テキスト』

著者：コリン・ローズ

内容：

「学習する力」こそが、21世紀における競争力です。

どうすれば、他の人よりも速く学び・考え・創造することができるのか?

あなたの「雇用価値」「市場価値」を高めるパワーツールを解説しています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tiMDOG>

『脳に悪い7つの習慣』

著者：林成之

内容：

脳は気持ちや生活習慣で、その働きがよくも悪くもなる。

この事実を知らないばかりに、脳力を後退させるのはもったいない。

脳に悪い習慣とは、

- (1)「興味がない」と物事を避けることが多い
- (2)「嫌だ」「疲れた」とグチを言う
- (3)言われたことをコツコツやる
- (4)常に効率を考えている
- (5)やりたくないのに我慢して勉強する
- (6)スポーツや絵などの趣味がない
- (7)めったに人をほめない

の7つ。

これらをやめるだけで、なぜ頭の働きは倍増するのか。

知らないと損する脳のしくみを、わかりやすく解説しています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tTgh0g>

『脳が冴える15の習慣—記憶・集中・思考力を高める』

著者：築山節

内容：

最近、何となく頭がぼんやりしている—。

記憶力や集中力、思考力が衰えたように感じている。

そんな「冴えない脳」を治すために必要なのは、生活の改善である。

『フリーズする脳』で現代人の脳に警鐘を鳴らした著者が、すぐにでも実行できて、有効性が高い15の習慣を提案しています。

仕事ができる脳、若々しい脳を取り戻すためのポイントを分かりやすく解説しています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tlKlgl>

『ごく平凡な記憶力の私が』

『1年で全米記憶力チャンピオンになれた理由』

著者：ジョシュア・フォア

内容：

古代ギリシャで知識人の必須のツールであった「記憶術」と、最先端の脳科学や一流のプロたちの技術習得の秘訣を学び、

全米記憶力選手権で優勝するまでの1年を描いた全米ベストセラーの話題作。

われわれ一般人でも、訓練すれば記憶の達人になれるのか？

記憶力はせいぜいで人並みであると自称する新進気鋭の科学ジャーナリストが、古代ギリシャの時代から知識人の中で綿々と受け継がれてきた由緒正しい記憶術を武器に、1年で記憶力の全米チャンピオンに輝くまでを描いた実験ドキュメンタリーです。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sq2FMt>

『ザ・マインドマップ』

著者：トニー・ブザン

内容：

記憶力、創造力、集中力、インスピレーション、考える技術や

学習のための技術、または知性や脳のひらめきを強化したいですか？

トニー・ブザンが発明したマインドマップは、「脳のスイスアーミーナイフ」

と呼ばれ、教育分野やビジネス分野を中心に、世界中で2億5000万人以上が使っている、単なるノート術にとどまらない革命的な思考ツールです。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rYnilb>

2. 人間関係のおすすめ本

『鏡の法則 人生のどんな問題も解決する魔法のルール』

著者：野口嘉則

内容：

本書は実話に基づく話を、著者でブログ人気NO. 1コーチの野口嘉則氏が登場人物の設定など少し変えて物語として書き下ろしたものです。その話のあらすじは・・・

主婦・栄子は息子がイジメにあっていることに悩んでいた。ひよんなキッカケから紹介を受けたコンサルタント・矢口氏に相談したところ「あなたが大事なお子さんを人から責められて悩んでいるということは、あなたが・・・」つづきは是非、本書をお読み下さい（笑）。

インターネットを通じて爆発的に広がっているこの物語は、読んだ人の9割が涙した感動と気づきのストーリーです。子どもがいる方や人を指導する立場にある方はもちろん、人間関係を考える上で、すべての方に是非、読んでいただきたい1冊です。

本書を通じてより多くの方が、過去から現在までの自分の問題点に気づき、未来に向けてより良い人間関係を築く一助になることを、願ってやみません。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sNLzSo>

『正負の法則 一瞬で人生の答えが見つかる』

著者：ドクター・ジョン・F・ディマティーニ

内容：

ドクター・ディマティーニは、「ヒーリング哲学のための知恵の広場学校」の創立者である。まれにみる才能に恵まれ、長年の経験と研究は広範な分野に及んでいる。カイロプラクティックのドクターとしてキャリアをスタートし、「人生と健康に関する普遍的原則」を探求する過程で、200以上のさまざまな学問分野を学び、本書で紹介するディマティーニ・メソッドを開発した。

世界的ベストセラー『ザ・シークレット』に「現代の哲人」として登場する、

ドクター・ディマティーニは、現在、国際的な講演者として、世界各国を飛び回り、啓発に満ちた物の見方、人間性に対するユーモアあふれる観察、実践的なメソッドによって、聴衆に新しい生命を吹き込んでいる。彼の言葉は人々の精神にインスピレーションを与え、心を開き、行動への意欲をかきたてる。

彼の哲学と、無条件の愛が持つ力についての革新的な理解は、今日ある心理学を再構築しつつある。彼の画期的な自己変革の手法は、世界中の数百万人もの人々の人生を変えている。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/17etYbL>

『生年月日の真実』

著者：佐奈由紀子

内容：

生年月日には、人生が面白いほどうまくいく知恵が隠されていた！

誕生日をもとにした統計心理学「バースデイサイエンス」の“12の性質”を知ることによって、相手の心を読み解き、仕事、恋愛、家族、友人関係を劇的に改善するコミュニケーション・アドバイス。

「誕生日」が示すその人の本来の姿を知っておくとどんな相手の心も絶対つかめる！

面白いほど人生がうまくいく知恵を分かりやすく解説しています。

あなたの性格も、周りの人の性格も簡単に分析できて、とても実用的です。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rDAn5T>

『ベスト・パートナーになるために』

著者：ジョン・グレイ

内容：

えっ男と女は違う星からやってきたの？

パートナーの本当の気持ちが変わり、“二人のもっといい関係づくり”の秘訣を何もかも教えてくれる究極の本です。

愛にも"かしこさ""やさしさ"が必要である。男と女がよきパートナーとして"最高の人間関係"を築くために、超えてはならない一線と、超えなくてはならない一線…愛の知恵を説く。

男と女の違いをととても分かりやすく解説してくれています。

ほとんどの人が思っている以上に、男と女は違います。

この違いを知っていれば、恋愛や夫婦関係、仕事でも、大きな成果をあげることができるよう。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/vWUhxV>

『部下を伸ばすコーチング』

著者：榎本英剛

内容：

今ビジネス界で大きな注目を集めるコーチング。

やる気を失った社員や元気のない企業を活性化する新しい指導スキルをわかりやすく解説。

ビジネス界で「命令型マネジメント」から「質問型マネジメント」への大きな変化が起こっている。

すなわち、これまでもっぱら上司は部下に命令する立場であったものが、逆に部下に質問を投げかけることで部下のやる気を引き出し、組織を活性化しようという考え方である。これがコーチングである。

現在、コーチングに関する多くの解説本があるが、本書は「コーチングとは何か」という最も革新的な部分を懇切に説いている。

これはコーチングを実践する人なら誰もが知っておかなければならない、

いわば必須理念であり、コーチングのバイブルといわれる所以である。

「依存」から「個立」を目指すビジネスマン、企業のための必読書である

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1uDwkeo>

3. コミュニケーションのおすすめ本

『人を動かす』

著者：デール・カーネギー

内容：

あらゆる自己啓発本の原点とも言うべき本書は、1937年に初版が発行されると瞬く間にベストセラーとなり、累計で1,500万部を売り上げた。著者の信ずるところによれば、経済的成功の15パーセントは専門的知識から生み出されるが、残りの85パーセントは「考えを表現する能力、リーダーシップをとる能力、そして人々の熱意を引き出す能力」によるものとなる。人と接する際の基本的な原則を基に、自分が重要視され、評価されていると相手に感じさせるようなスキルを教示する。また、操られていると相手に感じさせないようにしながらつき合う基本的な手法にも重点を置いている。カーネギーは、誰かに自分が望むことをさせるには、状況を一度自分以外の視点に立って観察し、「他人の中に強い欲望を喚起させる」ことで可能になると述べる。更に本書を通じて、相手に好かれる方法、自分の考え方に相手を引き込む方法、相手の感情を害することなく、あるいは恨みを買うことなくその人の考え方を変える方法を学ぶことができる。例えば、「他人にその考えが自分のものだと感じさせる」方法、そして「まず自分の失敗について語ってから他人を批判する」方法などである。また、歴史上の人物、産業界のリーダー、そして市井の人々の逸話を交えながら、著者の論点が分かりやすく解説されている。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1uykWjV>

『20歳の自分に受けさせたい文章講義』

著者：古賀史健

内容：

「話せるのに書けない!」人のための“文章の授業”

どうすれば自分の気持ちや考えを「文章だけ」で伝えることができるのか?

この授業のスタート地点はそこにある。そう、僕らは「話せるのに書けない!」

のだ。人に口で伝えることはできても、それを頭の中で文章に変換しようとする
ると、とたんに固まってしまう。メールの一通すら、うまく書けない。「話す
こと」と「書くこと」はまったく別の行為なのだ。決して「同じ日本語じゃな
いか」などと思っははいけない。この授業では、現役のライターである僕が、
現場で15年かけて蓄積した「話し言葉から書き言葉へ」のノウハウと哲学を、
余すところなく伝えていく。学校では誰も教えてくれなかった“書く技術”の授業
をいま、始めよう!

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1IRvCAL>

『伝え方の教科書』

著者：木暮太一

内容：

仕事も日常生活も、すべてが「コミュニケーション」=「伝える」ことが基礎に
あります。どんなに、仕事のスキルを磨いたところで「伝える力」がなければ、
そのスキルを活かすことはできません。

ところが、私たちは、学校でも会社でも「伝え方」を教わることはありません。
そのために、ちょっと込み入ったことになると伝わらない。いえ、ごくごく簡
単な事柄ですら、伝えたつもりが伝わっていない。

そのために、思うように仕事が進まなかったり、「言った、言わない」の言い
争いになったり、わかってくれない相手にイライラしてしまったり……。とき
には、「おまえの話はわかりづらい!」「……で、結局、何が言いたいのか?」と
言われてしまう。そんなストレスにさらされています。

そこで、生まれたのがこの本です。

伝え方の初歩的なテクニックから奥義まで、この一冊に詰まっています。

決して難しいことではありません。いくつかのポイントをしっかり押さえるだ
けで、誰でも「わかりやすく」伝えることができるようになるのです。

そして、「伝える力」を身に付けたとき、あなたの人生が変わります。「なる
ほど!」「よくわかった!」。日常生活からビジネスまで、相手からはポジティ

ブな反応が返ってくるようになります。仕事はやりやすく、人間関係も良好になり、毎日が楽しくなるのです。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1DE59Ce>

『嫌われる勇気』

著者：岸見一郎、古賀史健

内容：

「あの人」の期待を満たすために生きてはいけない――

【対人関係の悩み、人生の悩みを100%消し去る“勇気”の対話篇】

世界的にはフロイト、ユングと並ぶ心理学界の三大巨匠とされながら、日本国内では無名に近い存在のアルフレッド・アドラー。

「トラウマ」の存在を否定したうえで、「人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである」と断言し、対人関係を改善していくための具体的な方策を提示していくアドラー心理学は、現代の日本にこそ必要な思想だと思われま

す。本書では平易かつドラマチックにアドラーの教えを伝えるため、

哲学者と青年の対話篇形式によってその思想を解き明かしていきます。

著者は日本におけるアドラー心理学の第一人者(日本アドラー心理学会顧問)で、アドラーの著作も多数翻訳している岸見一郎氏と、臨場感あふれるインタビュー原稿を得意とするライターの高賀史健氏。

対人関係に悩み、人生に悩むすべての人に贈る、「まったくあたらしい古典」です。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1KLyvih>

4. 自己啓発のおすすめ本

『夢をかなえるゾウ』

著者：水野敬也

内容：

「成功法則書を読んでも人が成功しないのはなぜか？」

世の中にはこんなに多くの成功法則書、ビジネス書があふれているのに、成功者が増えたという話は聞いたことがありません。なぜだろう？ ずっと感じていた疑問でした。

そしてこの疑問に対する1つの解答を用意したのが本書です。

主人公は「人生を変えよう」として何かを始めるけど全部三日坊主に終わってしまうサラリーマン。

しかし、ある日突然、彼の目の前にゾウの姿をした奇妙な生き物が現れます。

「ガネーシャ」という名を持つ、インドからやってきたこの神様は、主人公の家にニートとして住みつき、ゲームをしては寝るだけ。たぶん、史上最悪のメンター(師匠)でしょう。

しかし、ガネーシャはこう言います。今から自分が出す簡単な課題さえこなしていけば、お前は確実に成功する――。

成功を願う普通のサラリーマンとぐうたら神様ガネーシャ。

この二人が「成功するためにはどうしたらいいか?」「そもそも成功とは?」自己啓発書のメインテーマを、従来とは少し違った形(具体的に言うと、漫才です)で深めていきます。「笑えてタメになる」という形式で読みやすくなっています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/17eWDNQ>

『幸せな宝地図でああなたの夢がかなう』

著者：望月俊孝

内容：

凡人でも成果の上がった 夢の実現法【宝地図】。

あなたが心から手に入れたい財宝が隠されている地図。
その地図は確実にあなたを財宝のありかに導いてくれます。
夢の実現、目標達成に導いてくれます。

- ・明確な目標が描けない（イメージできない）
- ・やる気や情熱が長続きしない。
- ・努力が成果に比例しない
- ・努力が苦痛を伴う。
- ・効果が上がらない方法をただ繰り返してしまう。
- ・忙しい中で夢実現に取り組む時間がとれない。習慣化できない。

こんな悩みをお持ちではありませんか。【宝地図】という方法に出会うことにより、今までとは嘘のように人生が好転し、夢が次々と叶えられるようになっていく人が続出しています。そのエッセンスをが解説されています。

あなたは本書を読む2時間程と、【宝地図】を創る2, 3時間で夢に向かって大きく一步を踏み出すことでしょう。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/16RaA3t>

『減らす技術』

著者：レオ・パポータ

内容：

かつてないスピード化の現代。瞬時にあらゆるものが手に入る一方で、私たちは対応できないほどの情報量、仕事量に圧倒されています。連日山のようなEメールにせき立てられ、ストレスはたまるばかり。毎日忙しく過ごしていからといって、思いどおりの生活とはかけ離れている。今でこそ世界中からアクセスされる超人気ブログZen Habitsを主宰するレオ・パポータもそんなストレスフルな生活を送る一人でした。脂ぎった塩分たっぷりの食事。運動不足でヘビースモーカー。太りすぎて、不健康。散らかりほうだいの自宅とオフィス。仕事は楽しくなく、将来も見えてこない。毎日が心底イヤになった著者は、「人生をシンプルにすること」にしました。

もっと努力を、もっと成果を、もっとお金を……「もっと、もっと」と求めるだけの生活には見切りをつけ、ただ「減らす」ことにフォーカスしたのです。すると、たった2年で彼の人生は激変しました。

今や愛する家族と風光明媚なグアムでストレスフリーに暮らす日々。

会社に縛られることなく、マイペースで仕事をしています。

20キロの減量に成功し、著書をベストセラーにし、収入は2倍。

ほかにも、ただ「減らす」だけで、ここには書ききれないほどの成果が上がっているのです。

究極のシンプルライフを実践する世界的人気ブロガー発「減らす法則とテクニック」これから生き抜くヒントが満載の、まさに時代のターニングポイントとなる1冊です。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/198uU25>

『ガラクタ捨てれば自分が見える』

著者：カレン・キングストン

内容：

中国四千年の知恵「風水」は願望を叶える現実的な手段だけではなく、自分を見つける最良の道なのです。そのためには、フレッシュで澄んだ空間を創って初めて効果がでます。「スペース・クリアリング」により周辺を整理し、余計な『ガラクタ』を捨て、滞った“気”を除き、自然の流れにそって自らを見つめる法です。精神を停滞させる不要品の整理についてのアドバイスは心があらわれます。清らかな空間で、誠実に、真の人生を生きることが大切です。本書を読み進め、実践していくうちに、あなたは知らず知らずに、新しい生き方を発見していくでしょう。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/szjyNV>

5. エッセイのおすすめ本

『人生生涯小僧のこころ』

著者：塩沼亮潤

内容：

平成11年、吉野・金峰山寺1300年の歴史で2人目となる大峯千日回峰行満行を果たす。

千日回峰行は片道二十四キロ、高低差千三百メートル以上の山道を十六時間かけて一日で往復。九年の歳月をかけて四万八千キロを歩く。

そういう苦行を経験したから、悟れるのではない。

大事なのは、行から得たものを生活の中でよく実践することである。

逆に言えば、それぞれに与えられた場でそれぞれに与えられた役目を果たしていく中でも、多くのことを感じ、悟ることができる。

だから、私たちの人生はすべて修行なのである。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/t0ieP9>

『まわりみち極楽論』

著者：玄侑宗久

内容：

「長い目で見れば人間はウソをつけない」

「幸福を目指すほど不幸になる」

「嫌いな人と出逢う意味とは」

「体が言うことを聞く言葉とは」……

今後の人生に不安を抱える若者から危機にある中高年まで、老若男女を問わず、生き悩んでいるすべての人の心に、芥川賞作家でもある現役の僧侶が正面から向き合う。

お釈迦さまの教えにしたがい、現世でこそ体と心が「楽」になる方法を示唆した、優しく深い人生相談。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/ru36Wb>

『死ぬときに後悔すること 25』

著者：大津秀一

内容：

ほとんどの人は死を前にすると後悔するという。

では、人生の最期を前に、どのようなことに後悔するのか。

本書は、終末期医療の専門家である著者が、

1000人を越す患者たちの吐露した「やり残したこと」を25に集約して紹介。

儂くも、切ない思いが行間から滲み出てくるようで胸が締め付けられます。

例外なく、死はすべての人に訪れます。

だからこそ、1人でも多くの人に後悔の少ない人生を送ってほしい。

心の苦痛を訴える末期患者と、正面から向き合ってきた著者が

綴った切実なメッセージが心に響く1冊です。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rw8vNK>

『哲学』

著者：島田紳助・松本人志

内容：

「そろそろ自分の死に際のことを考え始めている」島田紳助。

「『もうあいつには勝てんな』と他の芸人にいわせたい」松本人志。

互いに“天才”と認め合う二人が、照れも飾りもなく本音だけで綴った深遠なる

「人生哲学」。

お笑い、日本、恋愛、家族…ここまでさらけ出してしまっ、本当にいいのか？

二人の異才の全思考を語っています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sRRNjr>

『野村ノート』

著者：野村克也

内容：

創立5年目にして、楽天球団をクライマックスシリーズへと導き、その指導力をあらためて証明してみせた野村克也。

選手・監督として50年にわたる球界生活で得た原理原則を綴った伝説のメモ。そこにあったのは、「配球の原点」「スコアラーからのデータ利用法」「役目を確認させる打撃指導」「弱者の戦法」といった知将ならではの野球理論、そして「人づくりのポイント」「指揮官・リーダーの心構え」「機能する組織のあり方」など、上司としての管理術の数々だった。

34万部の大ベストセラーとなった“球界のバイブル”。

リーダーで人と組織はこれほど変わるー。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rAJ2H5>

『イチロー262のメッセージ』

著者：「夢をつかむイチロー262のメッセージ」編集委員会

内容：

イチローがメジャーデビューから4年間に発したメッセージの数々から、ヒット記録数分の262本を厳選!

彼の言葉は一見シンプルですが、実は深く考えさせられます。「憧れを持ちすぎると自分の可能性を潰す」「ただいい結果だからと自分を認めていたら、今の僕は無かった」「相手が変化したから自分も変化しようとする、これが一番怖い」「試行錯誤は自分の型を見つけれない不安の証」「スランプとは、感覚をつかめないことである」etc…。

どうしてイチローの言葉はこんなに響くのでしょうか…。偉業を成し遂げたものだけが伝えることの出来る、含蓄のあるメッセージを、すべての世代の方々に!!

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tZodNq>

『一步を越える勇気』

著者：栗城史多

内容：

「人に感動してもらおう冒険を行い、一步踏み出す勇気を伝える」。

人が生きていけないデス・ゾーンといわれるヒマラヤ8000メートル峰から、インターネット生中継を行い「冒険の共有」を目指す登山家・栗城史多の初の著書。

世界七大陸最高峰の単独登山や、8000メートル峰の単独・無酸素登山を通して学んだ「夢のかなえ方」「あきらめない生き方」をつづったこの本は、ビジネスマンや学生からも多くの感想が寄せられ、単なる冒険本としてではなく、人生そのものに役立つ本として支持を集めている。

栗城史多はなぜ山に登るのか、なぜ命をかけて生中継をおこなうのか、彼の思いを知りたい人、達成したいと思う目標が一つでもある人は、必読の一冊。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/s9wL86>

『幸せをはこぶ天使のパン』

著者：宇佐美 総子

内容：

古都・鎌倉の山の上。静かな住宅街に1軒のパン屋がある。

夫婦二人三脚で営むパン屋には、ショーケースも看板もない。

あるのは、小さな家庭用オーブンで焼き上げる、シンプルなパン。

だが全国からのオーダーは後を絶たず、順番待ちは3年にもなる。

ある者は愛する家族のため、ある者は病と闘いながら、パンがやって来る日を、じっと心待ちにしている。

人々に幸せと生きる勇気を届けるそのパンは、いつしか“天使のパン”と呼ばれるようになった。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tsmU9f>

6. 健康のおすすめ本

『フィット・フォー・ライフ』

著者：ハーヴィー・ダイヤモンド

内容：

ダイエット(食事制限)を健康維持の“特効薬”だと信じ、無条件で受け入れがちな日本の健康ブームのあり方に一石を投じる書。著者らは米国でカリスマ的人気を誇る栄養科学のカウンセラーだ。1985年に初版が世に出て以来、今日までに世界で1000万部以上が刊行されたロングセラーである。

溢れんばかりの健康関連情報の中にあって、我々は自然に即した本来の法則、すなわち「生命の法則」とも呼ぶべきルールを見失っていると言う。例えば、人間はもともと果食動物だったのだから、まずは果物を中心としたメニューを構成せよという。「果物は私たちの体内に摂取できる最も重要な食べ物だ」とまで言い切る。一方で「牛乳は決して人間のために作られたものではない」と論じ、カルシウムを取るためだけならば果物や野菜で十分だと、具体的な食材の例を示して解説する。ダイエットについては「私たち人間のあらゆる行動のなかで、最も効果がなく奇妙な行為」と批判する。

本書の後半では1日3食、4週間分に及ぶ理想のメニューを示す。さらに果物と野菜を中心とした推奨料理のレシピを公開している。本書向けに最近加筆された章もあり、米国民の肉食離れやベジタリアン(菜食主義者)が増加している実情などにも触れる。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sAdL4w>

『病気にならない生き方』

著者：新谷弘実

内容：

「病気になりたくない……」

本書は、誰もが共通してもつそんな夢のような願望をかなえようという本です。では、どうすれば健康で長生きできるのか。ひとことでは、ミラクル・エ

ンザイムを消耗しない生活を送り、食事を通じてミラクル・エンザイムをとり入れることだと、著者は語っています。

これまで30万例以上の胃腸を検査してきた著者は、その膨大な臨床結果から、「食歴」と「生活習慣」こそがその人の健康状態を決める最大の要因であることをつきとめました。そして、何がミラクル・エンザイムを消耗させ、何がミラクル・エンザイムを補うのかがわかれば、日々のちょっとした努力で、「病気になるらずに天寿をまっとうすることができる」というのです。

全米ナンバーワンの胃腸内視鏡外科医が教える「太く、長く、生きる方法」に触れてみてください。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rWWemv>

『医学不要論』

著者：内海聡

内容：

現代のニセ病気の大半は、それを治すという発想そのものが問題なのである。風邪の症状から胃腸の不良、体の痛み、頭痛、だるさ、めまいなどから、さまざまな精神症状など、さらには生活習慣病からアレルギーなどに至るまで、それらのほとんどは治してはいけないものである。

違う言い方をすれば「医学が治すべきものではない」ということだ。

ガン、リウマチ、気管支ぜん息、慢性胃炎、過敏性腸症候群、うつ病、メニエール病、高血圧、パーキンソン病…etc.その診断、もしかしたら“ニセ病気”かも!? 現役医師は、なぜ医学を見限ったのか?誰も書けなかったイガクムラの実態が今、露わに。

かなり辛口な著者から出てくる話は、それまでの医学の常識を疑うものである。医療業界の真実を知りたい人にはおすすめ。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rWWemv>

『炭水化物が人類を滅ぼす 糖質制限からみた生命の科学』

著者：夏井睦

内容：

「糖質制限」の陰の火付け役による待望の書!

糖質は人類にとって、神か、悪魔か――

著者は、「湿潤療法」のパイオニアだが、じつは昨今の糖質制限ブームの陰の火付け役としても知られている。

傷の治療法の発明時と同様、自分の身体で糖質制限を試し、

その効果や危険のなさを確かめた著者は、

糖尿病の糖質制限治療の第一人者である江部康二氏と親交を深めながら、

栄養素としての糖質の性質や、人類の糖質摂取の歴史、

カロリーという概念やその算出法のいいかげんさ、

そしてブドウ糖からみえてくる生命の諸相や進化などについて、

独自の考察や研究を開始。

本書では、糖質からみた農耕の起源についても新説を展開、

穀物栽培によって繁栄への道を得た人類が、

穀物により危機への道をたどりつつあることも指摘する。

糖質を切り口に様々なことを考える。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1KIdWDk>

『視力低下は「脳の疲れ」が原因だった!

—アメリカ視力眼科界の最新成果』

著者：中川和宏

内容：

パソコン・ゲーム・携帯電話時代の視力は、ピントをあわせる目の機能だけでなく、目でとらえた情報を処理する「脳」に回復のカギがあった。簡単な脳のトレーニングで、ダメージを受けた目の機能がどんどん良くなる!なぜ、今ま

での方法では効果がなかったのか。テレビ・雑誌で大反響！隠れた潜在視力が蘇る、目からウロコの「ビジョン・フィットネス」法の秘密。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tYp7rl>



7. 哲学のおすすめ本

『言葉の「気力」が人を動かす』

著者：藤平光一

内容：

成功に導くプラス発想のコツ、運命を開く驚異の言霊パワー！！

心に思い言葉にすれば、願いは必ず実現する。長嶋茂雄や王貞治を指導した「氣」の達人が、自らの人生の中で習得した「氣」の奥義を余すところなく伝授する！！

言葉には、力がある。たとえそれが深く考えないで話したことであっても、人の行動はその言葉に左右されてしまうものなのだ。

前向きなプラス発想の言葉は、人生を成功に導き、マイナス思考は失敗を招いてしまう……。 「氣」の達人が、自らの半生の中で習得した山岡鉄舟、中村天風など先達の教えを誰にもわかりやすく解説した、人生を変える1冊！！

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rVSL Eq>

『超訳 ニーチェの言葉』

著者：ニーチェ

内容：

ニヒリズムや反宗教的思想といった独自の思想により二十世紀の哲学思想に多大なる影響を与えた、十九世紀ドイツの哲学者ニーチェ。

「神は死んだ」という主張やナチズムとの関わりを噂されるなど、様々な伝説に彩られた孤高の哲人だが、実は彼は、ほとぼしる生氣、不屈の魂、高みを目指す意志に基づいた、明るく力強い言葉を多数残している。

本書では、それらの中から現代人のためになるものを選別した。心ゆくまで、あなたの知らなかったニーチェの世界を堪能していただきたい。

本文より：

「自分を常に切り開いていく姿勢を持つことが、この人生を最高に旅することになるのだ」

「今のこの人生を、もう一度そっくりそのままくり返してもかまわないという生き方をしてみよ」

「死ぬのは決まっているのだから、ほがらかにやっ払いこう。いつかは終わるのだから、全力で向かっていこう」

「喜ぼう。この人生、もっと喜ぼう。喜び、嬉しがって生きよう」

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tkBvD6>

『習慣の力』

著者：チャールズ・デュヒック

内容：

人間の日常行動の4割以上は「習慣」である。だから「良い習慣」を増やせば人生は劇的に改善する。

「消臭剤のファブリーズはなぜ突然ヒット商品になったのか」「アルコール依存症はなぜ治せるようになったのか」「スターバックスのスタッフを責任感の強いリーダーに育てるプログラムとは」。本書の著者によれば、これらはみな、「習慣」をうまく活用した成果であるという。

普段、私たちは自分の意志で行動を決めていると思っているが、実はそうではない。人間の全行動の4割は「習慣」、つまり脳で考えることなく、無意識に身体を動かしているのである。したがって、この習慣のメカニズムを知ることによって「良い習慣」を増やし、「悪い習慣」を減らすことができれば、人生は知らず知らずのうちに好転していくのだ。

本書は「個人の習慣」「成功する企業の習慣」「社会の習慣」の3部で構成されている。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1AVn7jZ>

『現代語訳 論語と算盤』

著者：渋沢栄一

内容：

日本実業界の父が、生涯を通じて貫いた経営哲学とはなにか。

「利潤と道徳を調和させる」という、経済人がなすべき道を示した『論語と算盤』は、すべての日本人が帰るべき原点である。

明治期に資本主義の本質を見抜き、約四百七十社もの会社設立を成功させた彼の言葉は、指針の失われた現代にこそ響く。

経営、労働、人材育成の核心をつく経営哲学は色あせず、未来を生きる知恵に満ちている。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1A88muc>

『GIVE&TAKE 「与える人」こそ成功する時代』

著者：アダム・グラント

内容：

全米トップ・ビジネススクール「ウォートン校」の史上最年少終身教授でもあり、気鋭の組織心理学者が教えるビジネスの成功の秘訣。

「ギバー(人に惜しみなく与える人)」

「テイカー(真っ先に自分の利益を優先させる人)」

「マッチャー(損得のバランスを考える人)」

もっとも成功するのは誰だろう。

他人に優しくしていたら、厳しい競争を勝ち抜けない?—それは大きな誤解だ。これからは、他者志向の思いやりの発想とコミュニケーションが、あなたの仕事に大きな成功をもたらす。

リーダーシップ、営業、交渉、事業の立ち上げ、昇進まで……ありとあらゆるシーンでこの考え方が役に立つだろう。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1IRVYm8>

『運命を拓く』

著者：中村天風

内容：

生命（いのち）と宇宙の結び目、心が一切を創る。運も成功も健康も、すべて心の働きだ。心に宇宙の無限の力を取り込み、積極的に生きてみよ。多くの人をよりよい人生に導いた、哲人天風 感動の教え！

宇宙本体の力は、人間の心の状態を鋳型として、これを現実化させる自然現象を現す。宇宙を司る宇宙本体の力が、我々の心が取る態度と、まったく同じ態度で我々に臨む、という事実がある。その宇宙本体と常に結ばれている自己を、明瞭に意識して生きるか生きないかとは、どれだけ人生に大きな差が出来るかわからない。——（本文より）

詳細はこちら→ <http://amzn.to/uNepwp>



8. 成功法則のおすすめ本

『7つの習慣 人格主義の回復』

著者：フランクリン・R・コビー

内容：

本書は1990年に初版が出版されたときにセンセーションを巻き起こしており、以来1,000万部以上を売り上げ、ビジネス書として今でもベストセラーを続けている。著者のスティーブン・コヴィーは、国際的に高い評価を受けるリーダーシップ研究の第一人者。真に成功を果たすには個人としての有効性と職業としての有効性をバランス良く備えることが重要だと認識しており、それを反映して本書は、この2つの領域でより効果的に行動するための手引書となっている。ここで引用される具体例では、ビジネス上の課題を題材にしたものと同じくらい家庭内における状況を数多く取り上げている。

7つの習慣を身につける前に、コヴィー博士が「パラダイムシフト」と呼ぶところの、世の中の仕組みに対する認識と解釈の転換をまず実現する必要がある。著者はこの転換の実現を支援し、生産性、時間管理、前向きな思考、「予防的に働く筋肉」（何かに反応するのではなく自発的に行動すること）の開発など、他にも多くのことに関する認識と行動に影響を与えている。

本書は明日からでも実践できることを謳い文句にしたヒント集ではない。そのコンセプトは時に複雑であるため、流し読むのではなく、じっくりと腰を据えてここから学び取りたいと感じる筈である。読み終えたときには、どの章にも付箋や手書きの注釈が数多く残され、コヴィー博士の講義に参加したような充実感に満たされることだろう。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/16KmzzY>

『成功の9ステップ』

著者：ジェームス・スキナー

内容：

「違いをもたらす違い」とは何だろうか。素晴らしい結果を出す人もいれば、

芳しくない結果しか得られない人がいます。経営コンサルタントと成功コーチの「ジェームス・スキナー」氏。日本に『7つの習慣』を贈りだした立役者がそうした違いを徹底的に検証し、成功のエッセンスをまとめた感動の書。より多くのお金、健康、時間の自由、愛に満ちた人間関係、充実した毎日を送りたいと願う人の人生バイブルになることは間違いなし。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rO5C0R>

『思考は現実化する』

著者：ナポレオン・ヒル

内容：

人は自分が思い描いたような人間になるという。すなわち思考は現実化する。著者のナポレオン・ヒルは、鉄鋼王カーネギーの発案に乗り、20年間無報酬で「成功哲学」を徹底的に研究した。カーネギーが見込んだ500人をインタビューし、彼らが成功していく過程を子細に追視。そこに共通する“思考”と“やりかた”を体系的にまとめたのである。驚くべき偉業である。この本は、なぜ「あなた」が今の「あなた」なのかをやさしく教えてくれる。不安の種を取り除き、未来を自分の思う方向に切り開いていくすべとともに。

確固たる願望を持つこと、決断、信念、忍耐、マスターマインド、計画の組織化が成功の扉を開ける鍵であると説き、「欲しいものを知れば、それは得られる」「他人を傷つけてまで成功することほど、愚かなことはない」という。そして「勝利者は断じてあきらめない」とも。リンカーン、O・ヘンリー、フォードなどが、それぞれが持っていた負の面をいかに克服し成功し得たのかは、わかりやすい事実であるだけに心にずっしりくる。

読み進めていくうちに、アメリカ合衆国がなぜ繁栄の現今にあるかがあぶり出されてくる。彼らは先人の成功の哲学をまじめに学んできたのであろう。誰もが必ず成功できると心得ているのだ。自分を知り、明確な目標を掲げ決断しさえすれば。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rO5C0R>

『非常識な成功法則—お金と自由をもたらす 8 つの習慣』

著者：神田昌典

内容：

著者は、大学卒業後、外務省に入省。その後ペンシルバニア大学ウォートンスクールで MBA を取得し、コンサルティング会社、外資系家電メーカーを経て、現在のコンサルティング会社を設立した。本人の体験や 3000 社にのぼる顧客企業の成功事例などをもとに、ありきたりの成功法則を否定し、凡人が成功するために必要な心構えや行動について、意見を述べている。

成功した人のきれいごとではなく、多くの金持ちが実践しているやり方を、ありのままに語っているところに特徴がある。

「目標は紙に書くと実現する」「やりたいことを明確にするためには、やりたくないことを明確にしなければならない」「自分でルールを敷く人と、他人にルールを敷かれる人では、人生のスピードが大きく変わってくる」など、常識の盲点をつく言葉に目を開かせられる。成功者たちがこれまでおっぴらに語らなかった成功法則が参考になる。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/twECGY>

『道は開ける』

著者：デール・カーネギー

内容：

ストレスに悩む現代人に、悩みを解決する方法を教える古典的名著。

具体的な技法の奥に、人間の弱さをあたたかくつつみこみながら、心の持ち方、人生への姿勢を語って、読者に自己変革への勇気を与える本書は、これまで無数の読者から感謝をもって迎えられ、いまなお世界各国でベストセラーを続ける驚異の書である。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/vAETwX>

『成功の教科書 熱血！原田塾のすべて』

著者：原田隆史

内容：

これぞサクセス道！夢実現の正しい“技術”

荒れた公立中学校を建て直し、ついには13回もの陸上日本一を成し遂げた伝説の「カリスマ体育教師」「生活指導の神様」が、子どもたちを夢実現に導いたノウハウと哲学を余すことなく紹介したのが本書です。著者が開発した目標達成の“システム”は、現在ではユニクロはじめ有名企業の人材育成プログラムにもどしどし導入されています。一度身につけたらあらゆる場面で活用できる、効果実証済みの“成功の仕方”です。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1MceWDj>



9. 資産形成のおすすめ本

『金持ち父さん貧乏父さん』

著者：ロバート・キヨサキ

内容：

パーソナルファイナンス専門の作家で大学講師でもあるロバート・キヨサキが、全く違うタイプである2人の人物の影響を受けて構築した、ユニークな経済論を展開している。1人は高学歴なのに収入が不安定な彼自身の父親、そしてもう1人は親友の父親で、13才のとき学校を中退した億万長者である。彼の「貧乏人のパパ」は一生のあいだ金銭問題に悩まされ、ついには家庭生活崩壊の憂き目を見る（立派な人物ではあるが、週払いの小切手では家計が潤うことは1度もなかった）。一方、「お金持ちのパパ」はそれとは全く対照的な人生を謳歌することとなる（「金のために働く下層・中産階級」が「自分のために使う金には困らないお金持ち」になったのだ）。この教訓を肝に銘じていた筆者は、47才で仕事をリタイアすることができた。コンサルタント兼公認会計士のシャロン L. レクターとの共著である本書では、彼とお金との関わりあいを支えてきた哲学が披露されている。

学校教育では絶対教えてくれない「経済面でのリテラシー」の必要性を主張する本書は説得力がある。変わりばえのしない仕事を極めることよりも、収入を元手に資産を賢く殖やすことの方が、最終的には必ず人生に富をもたらすという主義に基づき、仕事に見切りをつけるための資産を得るにはどうしたらよいかを教えてくれる。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/uRnjGv>

『金持ち父さんのキャッシュフロー・クワドラント』

著者：ロバート・キヨサキ

内容：

本書は、2001年11月発売後ミリオン・セラーになった『金持ち父さん 貧乏父さん』の第2弾、第一作で書かれた基本的な「お金についての考え方」をさ

らに掘り下げて、「いまの激動する世界をどう生きたら安全なのか」「どうやったら経済的自由を手にすることができるのか」を教えてください。

『金持ち父さん 貧乏父さん』のさらに先、どんなアクションをとるか、どんな考え方をすればよいのか、について知りたい全ての人に応える1冊です。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/ucE6Jb>

『金持ち父さんのパワー投資術』

著者：ロバート・キヨサキ

内容：

金持ち父さんはこう言った。「人生は時間とお金のゲームだ」

より少ないリスクと元手で、より大きなリターンを、より短期間に得られる投資術とは何か。自分のお金を自分でコントロールし、もっと多くのお金を儲けたい人へ。「紙の資産（株・債券など）」「不動産」「ビジネス」の3つの投資でレバレッジをかけて、資産を増やしていく方法を紹介しています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tRCN0p>

『ピーター・リンチの株で勝つ』

著者：ピーター・リンチ

内容：

著者ピーター・リンチは、全米 NO.1 ファンドマネジャーとまでいわれた株式投資界の伝説の人物である。リンチはアメリカの株式市場が不況に吹き荒れていた 1977 年から 1990 年の 13 年間で、2000 万ドルだったマゼラン・ファンドを 140 億ドルという驚異的なファンドに育て上げた。

本書は、そのファンドマネジャーの座を降りた直後の 1989 年に出版された原書『ONE UP ON WALL STREET』の邦訳である。翌年の 1990 年に日本でも出版されたが、2000 年を期に「ミレニアム版への序章」が新たにつけ加えられて再出版された。その序章で「アマチュアの強み」が述べられていることからわかるが、本書はリンチが個人投資家に向けて「基本的な情報と勇気を与

えるため」に書いたものである。プロの投資家として成功の秘訣を余すところなく語る一方で、プロが買う株や市場の噂に惑わされず、アマチュアの優位性を遺憾なく発揮した投資法を説く。

本書は「投資を始める前に」「有望株の探し方」「長期的視野」の全3部からなり、株の判断に役立つ数字の解説や株の分類による株動向のとらえ方、情報収集のポイント、ポートフォリオ、売買のタイミングなど、投資の基本から実践的な内容までが並ぶ。

ただ、本書はアメリカ市場に基づいているため、リンチの投資法をそのまま日本市場に当てはめて考えるわけにはいかない。しかし、本書から得られる投資の基本的な知識、考え方、心構えは普遍的なもので示唆に富んでおり、初心者だけでなく、ある程度経験を積んだ投資家にとっても得られるものは多いはずだ。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tRCN0p>

『マーケットの魔術師』

著者：ジャック・D・シュワッガー

内容：

アメリカのトップトレーダー（＝マーケットの魔術師）たちが語る成功の秘訣を書き、話題となった『Market Wizards』の翻訳書。

トレードは、経済活動における最終・最大の未開拓分野であるとともに、個人が少ない資金を元手に億万長者になれる数少ないチャンスの1つである。もちろん、最終的にはひと握りの個人だけがこの離れ業に成功するのだが、そのチャンスを身近なものにするための方法や、トレーディングで自己の限界を超えたいと悩んでいる人たちに、解答なりヒントを与えてくれるのが本書である。

本書では、トレーダーである著者自身が、アメリカのトップトレーダー16人とトレーダーの研究を続けている心理学者1人に行ったインタビュー記事がつづられている。インタビューの内容は、「成功のカギとなる要素は何か」「相場に対するアプローチ法」「トレード・ルールは何か」「初期のトレードの経験」「他のトレーダーに対するアドバイス」など。彼らのほとんどが、失敗を糧に苦難の時期を乗り越え成功への道のりをたどっていったことがわかる。本

書は、トレードの成功には王道はないが、トレードの方法論における態度や原理については共通性があることと、誰でも適切な訓練を受けて努力を重ねれば成功トレーダーになれることを教えてくれる。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1KHRPwK>

『バフェットの法則』

著者：ロバート・G・ハグストローム

内容：

株式投資で、バフェットほど大きく資産を増やした人はいない。その投資法則は、専門家にしかできないものではなく、手間さえ惜しまなければ、誰にでもできるもの。小手先だけのテクニックではなく、じっくり資産を育てたい人にオススメの投資スタイルが学べる。バフェット本 No.1。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1KHRPwK>

『となりの億万長者 成功を生む7つの法則』

著者：トマス・J・スタンリー

内容：

本物の億万長者とはどんな人間で、ふつうの人々とはどこが違うのか。アメリカの億万長者の驚くべき暮らしぶりを徹底的に取材・調査し、その分析結果から発見された、人生に成功をもたらす「ミリオネアの知恵」を明かす。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/vJUuxD>

10. ビジネス書のおすすめ本

『TQ一心の安らぎを発見する時間管理の探究』

著者：ハイラム・W・スミス

内容：

ユタ州でコンサルティング会社の CEO を務める著者のハイラム・W. スミスは、ベンジャミン・フランクリンから強い影響を受けた人物で、アメリカ社会の時間管理に関する洞察に満ちた見解を本書で展開している。「生活の慌しさは日々増していくばかりである。単調な日常業務に急ぎ立てられ、私たちは一心不乱に走ることを余儀なくされるが、結局は一つ所に留まっているに過ぎない」。時間と出来事の、ひいては生活のコントロールを取り戻すために著者が行う提案は非常に興味深く、目標の設定、計画的行動、そして安心領域からの脱出について示唆を与える。著者の鋭く焦点を絞った管理についての複合概念は、「心の安らぎ、すなわち充足や幸福が最高潮に達した感覚」に到達することを目的とした「出来事管理」を実現するための素材ともなっている。因みに、著者が経営する会社のセミナーや製品の推奨文句は不要であろう。本書の大きな特長は、時間管理を出来事管理と捉えることにより、生活のコントロール度合を高める点にあります。そして、人間の行動を基本的な欲求のレベルまで掘り下げ、単なる効率だけを考えた時間管理では決して味わうことのできない、永続的な「心の安らぎ」を獲得することができるとしたのです。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1zRHtHJ>

『ザ・ゴール 企業の究極の目的とは何か』

著者：エリヤフ・ゴールドラット

内容：

機械メーカーの工場長である主人公のアレックス・ロゴを中心に繰り広げられる工場の業務改善プロセスを主題にした小説。通常、アメリカでベストセラーとなったビジネス書は、すぐに日本語に翻訳されるものだが、本書は世界で

250万部売れたにもかかわらず、17年もの間日本での出版だけが認められなかった。いわば「幻の名著」である。

長引く経営の悪化、工場閉鎖までたった3か月の猶予期間、多忙な日々のなかながしろにしてきた妻との離婚の危機…。アレックスは、あまりの危機的状況にすっかり意気消沈していた。その前に、恩師、ジョナが現れ、彼にアドバイスを与える。工場を救うために業務改善に挑む登場人物の苦悩や目標達成の興奮が伝わってきて、ビジネスの醍醐味を感じさせるストーリーだ。

本書は小説ではあるが、その内容は恐ろしいほど実践的で、会計情報の正しい見方や落とし穴、「効率化」の陰に隠された諸問題を浮き彫りにする。魅力的なストーリーの中に複雑な業務改善のノウハウがわかりやすい形で盛り込まれており、ビジネスパーソンやマネジャー必読の内容である。

また本書は、問題解決にあたってはゴールを共有し、信念を貫くことが重要であること、数字の陰に隠された実態を見抜くことの重要性、情報共有化の意義など、経営において重要な示唆も与えてくれる。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1McgdKG>

『全体最適の問題解決入門 —

「木を見て森も見る」思考プロセスを身につけよう！』

著者：岸良裕司

内容：

問題は、分解してはいけなかった!

これまで多くの問題解決手法が、問題と言われている症状そのものを分解・分析して解決策を考察してきた。だが、結果的に全体との関連を見失いがちになり、気がつく「木を見て森を見ず」の解決策に陥りかねない。

さまざまな問題をつなぎ合わせると、ほんとうの問題の姿が見えてくる。

全体最適で、問題の根本から解決する思考プロセスをわかりやすく説く。

——みんなが納得する「対立解消術」

——つなげて見える「現状把握術」

——逆転発想でつくる「未来構想術」

- 中間目標に集中する「目標達成術」
- 先を読む力を鍛える「実行手順立案術」
- 全体最適でみんなをつなぐ「戦略戦術実践術」

望ましくない現象を逆手にとって、望ましい状況をつくり出そう。問題こそ、飛躍のチャンスだ！

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1zKOdbJ>

『ハイ・コンセプト 「新しいこと」を考え出す人の時代』

著者：ダニエル・ピンク

内容：

21世紀にまともな給料をもらって、良い生活をしようと思った時に何をしなければならぬか—この「100万ドルの価値がある質問」に初めて真正面から答えを示した、アメリカの大ベストセラー。6つの感性があなたの道を開く。これからの時代に必要な6つのポイントを分かりやすく、実用的に解説しています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sjdn32>

『なぜか、「仕事がうまくいく人」の習慣』

著者：ケリー・グリーンソン

内容：

手をつけていない書類がデスクの上に山積みになっている、 unnecessaryなメールが山ほどあって、必要なメールを探し出すのに毎回時間を費やしている…。我々は、わかっているのに、 unnecessaryなものを保管し、大切なものをゴミの山の中に埋もれさせてしまっています。

効率的に仕事をし、時間を節約するには、ちょっとした習慣があれば十分です。だが、多く人はそれができていないために苦労している。本書は、能率向上プログラム (PEP) の創始者、ケリー・グリーンソンによる「良い仕事の習慣」を身につけるための本です。「すぐにやる」「すぐに整理する」「機械的に行

なう作業を決める」「すぐに計画する」など、計8つの章に分けられ、それぞれ「仕事がうまくいっていない人」の例と、著者による改善提案が紹介されています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rOiOL3>

『プロフェッショナルの条件』

著者：ドラッカー

内容：

現代マネジメント思想の巨人、ドラッカーを初めて読む人のために、これまでの著作10点、論文1点からエッセンスを抜き出し、ドラッカー自身が加筆・削除・修正した必携本である。

3部作『THE ESSENTIAL DRUCKER』のうちの第1部で、個人の生き方と働き方が主題となっている。

社会において業績をあげ、何かに貢献し、成長するにはどう考え、行動すべきか。単なる業績アップやキャリアアップを目指すものではなく、これからの時代を生きる知識労働者が理解すべき本質的な問題を取り上げている。

随所に具体的で明快なアドバイスを盛り込みながら、個人が「何をもって記憶されたいか」という究極の問いかけへと向かっていく。

編者によれば、本書はドラッカーが初めてという人だけでなく、ドラッカーの世界が「大き過ぎて全体が見えない」という人、次にどの著作を読めばいいのか悩んでいる人たちのためのガイドブックとして作られたという。

座右に置いて何度も読み返せば、そのたびに新たな発見があり、勇気がわいてくるはずだ。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rtr8tl>

『はじめの一步を踏み出そう』

著者：マイケル・E・ガーバー

内容：

著者は20年間にわたって、スモールビジネスを対象にした経営コンサルティング活動を行ってきた。アドバイスしてきた企業は25000社にも及ぶ。本書はその経験を生かし、職人の視点からスモールビジネスが失敗しがちな原因を分析。本書によると、米国では毎年百万人以上の人たちが会社を立ち上げる一方、1年目に40%、5年目で80%以上が姿を消しているという。その多くは「事業の中心となる専門的な能力があれば、事業を運営する能力は十分に備わっている」という誤った仮定で事業を始めるからだ。実際には専門的な仕事をこなすことと、事業を運営することは全く別の問題だと述べる。帳簿をつけたり、人を雇ったりと、これまでに経験がないような仕事かわき出してきた、本業に手が回らなくなる。そうならないためには、収益を生み出す事業を定型化して、パッケージにしてしまうことが大事だ。つまり、自分がいなくても、ほかの人が同じように事業を回せる仕組みをつくることだという。そして、「どうすれば、ほかの人に任せても、事業は成長するだろうか？」などの質問を投げかけ、目標設定や組織戦略、人材戦略など、具体的なノウハウを解説していく。職人タイプの経営者が本物の経営者になるために参考とするには最善の書であり、スモールビジネスに関心のある人にもおすすめしたい。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sovnps>

『バタフライ・エフェクト 世界を変える力』

著者：アンディ・アンドルーズ

内容：

穀物の品種改良で20億人を飢餓から救ったとしてノーベル賞を受賞したノーマン・ボーローグから始め、彼を起用したヘンリー・ウォレス等、影響を与えた人物たちをさかのぼっていく物語を通して、一人ひとりの小さな行動が、世界に大きな影響を与えることを説く、感動のノンフィクション。

あなたが動けば、世界は変わる。魂を揺さぶるベストセラー。

あなたの行なう一つひとつの小さな行為は、

「バタフライ効果」のように、いずれ世界を大きく動かしてゆきます。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/uKKOav>

11. 小説のおすすめ本

『坂の上の雲（全八巻）』

著者：司馬遼太郎

内容：

同じ松山で生まれ育った正岡子規と、日露戦争で活躍した秋山兄弟。子規は病と闘いながら俳諧の革新に挑み、秋山兄弟はそれぞれ日本の騎兵、海軍の技術向上に尽力した。当時最強とうたわれたロシアのコサック騎兵を打ち破るべく、ひたすら仕事に打ち込む兄好古と、文学の世界に未練を残しながらも海軍に入隊し、海軍戦術を研究し続けた弟真之。2人のまじめな努力の成果は、歴史が証明している。誰もが立身出世を目指した時代に、彼らがどうやって自分の人生の意義を見出したのか？

日清・日露戦争を舞台に、日本の近代化を描いた傑作小説。

司馬遼太郎の大河小説の中でも、本書は特に評価が高く、ビジネスパーソンをはじめ、多くの人々に読まれている。改革の時代にこそひも解きたい、そんな1冊である。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/vcW4rV>

『アルケミスト―夢を旅した少年』

著者：パウロ・コエーリョ

内容：

羊飼いの少年サンチャゴは、アンダルシアの平原からエジプトのピラミッドに向けて旅に出た。そこに、彼を待つ宝物が隠されているという夢を信じて。長い時間を共に過ごした羊たちを売り、アフリカの砂漠を越えて少年はピラミッドを目指す。「何かを強く望めば宇宙のすべてが協力して実現するように助けてくれる」「前兆に従うこと」少年は、錬金術師の導きと旅のさまざまな出会いと別れのなかで、人生の知恵を学んで行く。欧米をはじめ世界中でベストセラーとなった夢と勇気の物語。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1zKQkw3>

『V字回復の経営』

著者：三枝匡

内容：

本書のストーリーは、事業再建を専門にするコンサルタントである三枝が、過去にかかわった日本企業5社の事業改革を題材にしたもの。ストーリーはノンフィクションとフィクションの間、つまり5社での体験を素材に、どの企業にもあてはまる「経営改革のモデル・ストーリー」を構成したものである。

本書はフィクションであるが、それを感じさせない強烈なリアリティを放っている。改革のもと、社内に生じる政治力学、葛藤、抵抗勢力とのかけ引きといった細部が徹底して描きだされているのだ。著者はストーリーの進行に合わせて組織硬直化の「症状」を分析したり、改革の「要諦」をまとめたりして、逐一処方箋を示していく。

ストーリーは、現実の直視と分析、先導者の組織化、改革コンセプトの共有、戦略の意思決定、改革シナリオの現場への落とし込み…という改革のモデルパターンをたどって進む。自ら改革すべき企業の代表取締役となり、リスクと利害を共にするコンサルティングスタイルを取る三枝ならではの経験と知識がストーリーの中に凝縮されている。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/uwwyKA>

『アルジャーノンに花束を』

著者：ダニエル・キイス

内容：

32歳になっても幼児の知能しかないパン屋の店員チャーリー・ゴードン。そんな彼に、夢のような話が舞いこんだ。大学の偉い先生が頭をよくしてくれるというのだ。この申し出にとびついた彼は、白ネズミのアルジャーノンを競争相手に、連日検査を受けることに。やがて手術により、チャーリーは天才に変貌したが…超知能を手に入れた青年の愛と憎しみ、喜びと孤独を通して人間の心の真実に迫り、全世界が涙した現代の聖書(バイブル)。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/uSBKEZ>

『峠』

著者：司馬遼太郎

内容：

壮大な野心を藩の運命に賭して幕末の混乱期を生き抜いた英傑の生涯！

幕末、雪深い越後長岡藩から一人の藩士が江戸に出府した。藩の持て余し者でもあったこの男、河井継之助は、いくつかの塾に学びながら、詩文、洋学など単なる知識を得るための勉学は一切せず、歴史や世界の動きなど、ものごとの原理を知ろうと努めるのであった。さらに、江戸の学問にあきたらなくなった河井は、備中松山の藩財政を立て直した山田方谷のもとへ留学するため旅に出る。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sPVkAK>

『小説 上杉鷹山』

著者：童門冬二

内容：

九州の小藩からわずか十七歳で名門・上杉家の養子に入り、出羽・米沢の藩主となった治憲(後の鷹山)は、破滅の危機にあった藩政を建て直すべく、直ちに改革に乗り出す。一高邁な理想に燃え、すぐれた実践能力と人を思いやる心で、家臣や領民の信頼を集めていった経世家・上杉鷹山の感動の生涯を描いた長篇。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/ttFVgS>

『ダビンチ・コード』

著者：ダン・ブラウン

内容：

ルーヴル美術館のソニエール館長が異様な死体で発見された。死体はグランド・ギャラリーに、ダ・ヴィンチの最も有名な素描〈ウィトルウィウスの人体図〉を模した形で横たわっていた。殺害当夜、館長と会う約束をしていたハー

ヴァード大学教授ラングドンは、警察より捜査協力を求められる。現場に駆けつけた館長の孫娘で暗号解読官であるソフィーは、一目で祖父が自分にしか分からない暗号を残していることに気付く……。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/vedt0A>

『星の王子さま』

著者：サン＝テグジュペリ

内容：

本書は、ストーリーの展開を楽しむ意味においては子ども向けだが、むしろ大人向けのメッセージに満ちていて、本来人間には「心の目」が備わっているということと呼び起こされる。その、真実を見ることのできる「心の目」をもって、大切にしていかなければならないモノを感じ取り、それを生かしていくことで人は豊かになれるはずなのだが、さまざまなことに心を奪われ見えなくなっていき、やがて見ようとしなくなる（王子が訪れた星に住む大人たちは点灯夫以外その象徴のようでもある）。

キツネの言葉「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目には見えないんだよ」は著者からの、大人、そしてこれから大人になる子どもたちへの警鐘なのかもしれない。詳細はこちら→

<http://amzn.to/1DA08dR>

『赤毛のアン（全十巻）』

著者：モンゴメリ

内容：

ちょっとした手違いから、グリーン・ゲイブルスの老兄妹に引き取られたやせっぽちの孤児アン。初めは戸惑っていた2人も、明るいアンを愛するようになり、夢のように美しいプリンス・エドワード島の自然の中で、アンは少女から乙女へと成長してゆく。愛に飢えた、元気な人參あたまのアンが巻き起す愉快的事件の数々に、人生の厳しさと温かい人情が織りこまれた永遠の名作。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/vZouAc>

『神々の山嶺』

著者：夢枕獏

内容：

カトマンドゥの裏街でカメラマン・深町は古いコダックを手に入れる。
そのカメラはジョージ・マロリーがエヴェレスト初登頂に成功したかどうか、
という登攀史上最大の謎を解く可能性を秘めていた。
カメラの過去を追って、深町はその男と邂逅する。羽生丈二。
伝説の孤高の単独登攀者。羽生がカトマンドゥで目指すものは？
柴田錬三郎賞に輝いた山岳小説の新たなる古典。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/uvtlmc>

『ホタル帰る』

著者：赤羽礼子・石井宏

内容：

1945年6月、出撃の前夜、特攻隊員の宮川軍曹は「小母ちゃん、死んだらまた小母ちゃんのところへ、ホタルになって帰ってくる」と鳥浜トメに言い残して鹿児島県知覧基地から出撃していった。ところがその夜、トメの家に、本当に一匹のホタルが入ってきたのである。この本の題名はこのエピソードからとられた。軍の指定食堂を経営する鳥浜トメは長女的美阿子と次女の礼子とともに、出撃する特攻隊員を暖かく迎え、送りだした。隊員たちもトメを実の母親のように慕った。この本は、息づまるような状況のなか、日本人がどのように行動したかの貴重な証言である。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sJSDhN>

『志高く 孫正義正伝 完全版』

著者：井上篤夫

内容：

孫正義の原点とビジョンを見事に活写した人間ドラマ！

徒手空拳から立ち上がり、日本を代表する事業家となった男・孫正義。

孫の原点となる少年時代に始まり、アメリカでの青春時代、そしてソフトバンクの創業時代から情報革命に挑む現在に至るまで、波乱に満ちたその半生を、孫がもっとも信頼を置く作家・井上篤夫が二十数年にわたる徹底取材で描いた決定的評伝。

読むと勇気と活力が湧いてくる、孫本人がはじめて公認した「正伝」。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/us0ldV>

『拝金』

著者：堀江貴文

内容：

「藤田優作、君はどのくらいの金持ちになりたい？」

「そうだな、金で買えないものはない、そう言えるくらいかな」

「わかった。それでいこう」

年収200万円のフリーター・優作はなぞのオッサン・堀井健史と握手を交わした。そこから彼の運命は大きく変わる。携帯ゲーム事業を成功させ、さらにあらゆる金融技術を駆使。瞬く間に会社は売上500億円の手IT企業に変貌する。人はそれを「ヒルズの奇跡」と呼び、優作は一躍時代の寵児に。快進撃はさらに続くかに思われた一オッサンの無謀なミッションが下るまでは。金とは、勝者とは、絆とは？ 感動の青春経済小説。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/upM2NP>

12. 経営者本のおすすめ本

『生き方—人間として一番大切なこと』

著者：稲盛和夫

内容：

充実の人生と成功の果実をもたらす、ゆるぎなき指針。二つの世界的大企業・京セラとKDDIを創業した著者が語りつくした、人生哲学の集大成。

人間として正しい生き方を志ざし、ひたすら貫きつづける。

それが、いま私たちにもっとも求められている。

混迷の時代に打ち込む、稲盛流の「生き方」という一本の杭。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1JofeM>

『幸之助論—「経営の神様」松下幸之助の物語』

著者：ジョン・P・コッター

内容：

経営の神様、松下幸之助氏の生涯を描いた伝記。

幼少期の厳しい家庭環境から、青年起業家として成長し、一代でパナソニックグループを作ることに成功する。

その成長の記録を伝える。人生の後半では、教育者や思想家としても活躍していった松下幸之助氏の活動を解説している。

経営の神様のすべてが、この一冊で理解できる本である。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1JJuTl6>

『顧客が熱狂するネット靴店 ザッポス伝説』

著者：トニー・シェイ

内容：

本書はアメリカのオンライン靴小売企業ザッポス・ドットコム成功物語であり、画期的なマネジメント方法論について書かれた経営書です。同社の若きCEO（最高経営責任者）トニー・シェイによる初の著作として、全米1位を重なるベストセラーの邦訳となります。

ザッポスの代名詞といえば、フレンドリーで心のこもった、顧客に「ワオ！」（感動）をもたらすサービス。「信じられないくらい素晴らしいサービスだった」「ザッポス最高！」「生涯の顧客をひとり増やしましたよ」「超音速の配送で、顧客サービスの博士号をお持ちですね」――感激のあまり涙ながらに書いた礼状を送った顧客もいるほど、高い顧客満足度を誇るザッポスのサイトは顧客からの感謝と賛辞のクチコミにあふれ、そのサービスは創業10年あまりですでに伝説となりつつあります。本書では同社がいかにこうしたサービスとブランドを生み出すにいたったか、泣き笑いのストーリーの中で描かれています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tW6ApR>

『やりたいことをやれ』

著者：本田宗一郎

内容：

あふれるばかりの人間的魅力と、ものごとの本質を掴み切る飛びぬけた洞察力！ 読む人すべてに喜びと勇気を与える珠玉の言葉の数々。

本田宗一郎氏が、様々な場所に書き、語った言葉の数々を一冊にまとめたものが本書である。外国人の客が汲み取り式便所に落とした入れ歯を拾った話から人情の機微を説き、歌舞伎町での遊び方がわからなかったことから老害の本質を説く。若い頃に胸を躍らせたエンジンや飛行機との出会い、父の教え、そして藤沢武夫氏との邂逅。競争の本質とは何かをレースの経験から熱く語り、発明は恋愛と同じだと喝破する。成功とは99%の失敗に支えられた1%であるという信条を持ちながらも、失敗はつつい厳しく怒鳴りつけた話。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/w1IKiH>

『カップヌードルをぶつつぶせ』

著者：安藤宏基

内容：

創業者は異能、二代目は凡能。だからこそ、二代目にしか語れないことがある—「打倒カップヌードル」を唱えた日清食品の二代目社長が、創業者にしてカップヌードルの発明者である、父・安藤百福との確執や、新製品の開発にはずみをつけるための社内改革、独自のマーケティング戦略などについて綴った、自伝的経営哲学書。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/szbqFs>

『一勝九敗』

著者：柳井正

内容：

著者は父から受け継いだ衣料販売店を、海外を含む500店舗以上の「ユニクロ」チェーンに育て上げた人物だ。時代感覚にマッチした商品を手頃な価格で大量販売する一方、テレビコマーシャルなどを巧みに活用し、新たなブランドイメージを定着させた。本書は柳井正氏自らが成長の軌跡を総括するもの。ブームの追い風が強まる陰で、実は10の施策のうち9が失敗であったことを明かす。同時に、起業家とは失敗にひるまない精神力の持ち主でなければならないことを力説する。

商売が軌道に乗ると「作れば売れる」が社内の常識となり、「一種の自動販売機状態」に陥ると言う。「市場に踊らされてはならない」という自戒は、一大ブームを創り上げた本人の弁だけに説得力がある。その他「二十三条の経営理念」、自ら信条とする「起業家十戒」「経営者十戒」を披露する。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sC9IOH>

13. 企業経営のおすすめ本

『ビジョナリー・カンパニー2 -飛躍の法則』

著者：ジェームズ・C・コリンズ

内容：

企業研究の決定版。ごく普通の会社が、世界有数の経営者に率いられた超一流企業に勝るめざましい業績をあげるまでに変身した。全米1435社の中から選ばれた傑出した業績を長期間持続させることに成功したジレット、フィリップ・モリス、キンバリー・クラーク、ウェルズ・ファーゴ等の飛躍を遂げた企業11社をそれぞれの業種で競合関係にある企業と詳細に比較・分析した結果、飛躍したこれらの企業には共通した以下のような特徴があった。

●飛躍を導いた経営者は、派手さやカリスマ性とは縁遠い地味なしかも謙虚な人物だった。その一方で勝利への核心を持ち続ける不屈の意思を備えており、カエサルやパットン将軍というよりは、リンカーンやソクラテスに似た思索する経営者であった。

●飛躍を導いた経営者は、最初に優秀な人材を選び、その後に経営目標を定める。目標にあわせた人材を選ぶのではない。

●飛躍を導いた経営者は、自社が世界一になれる部分はどこか、経済的原動力は何か、そして情熱を持って取り組めるものは何かを深く考え、必要とあればそれまでの中核事業を切り捨てる判断さえ下す。

●劇的な改革や痛みを伴う大リストラに取り組む経営者は、ほぼ例外なく継続した飛躍を達成できない。飛躍を導いた経営者は、結果的に劇的な転換にみえる改革を、社内に規律を重視した文化を築きながら、じっくりと時間をかけて実行する。

良い会社ではなく、偉大な会社を作るための最高の指南書。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/v2dKOd>

『ビジョナリー・カンパニー4 自分の意思で偉大になる』

著者：ジェームズ・C・コリンズ

内容：

ピーター・ドラッカーの後継者とされるコリンズ。

今回は初めて外部環境を変数に入れ、不確実でカオスのような時代に他を圧倒して成長している偉大な企業7社を導き出した。

10X型企業がそれだ。10X型企業とは同業よりも最低10倍以上のパフォーマンスを上げているスーパー・エクセレント・カンパニーのことだ。その10X型企業の特徴を同業の有力企業と比較する「一対比較法」で鮮明に描き出した。今回は「二〇マイル行進」「銃撃に続いて大砲発射」{SMaCレシピ(具体的で整然とした一貫レシピ)}「運の利益率(ROL)」などの斬新で大胆な概念を有効に使って解説。一般の企業より10倍以上の利益を上げている会社のリーダーの特徴を解説している。

加えて、全米屈指のロッククライマーであるコリンズらしく、南極征服を争ったアムンゼンとスコットの物語やエベレスト登頂なども題材に、厳しい環境にも負けない10X型リーダーの姿を生き生きと描いている。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1A7L2gh>

『企業参謀』

著者：大前研一

内容：

新しい時代の企業戦争を生き残る鍵を握るのは、

評論家になり下がったスタッフ集団でも、

アイデアを花火のように打ち上げるだけの一匹狼でもない。

組織の中にあって、企業の頭取脳中枢として戦略的行動方針をつくりだし、

それをラインに実行させる独特の力をもつ「企業参謀」集団

——その存在が命運を決める。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/uhMvwZ>

『エクセレント・カンパニー』

著者：トム・ピーターズ

内容：

世界中のMBAが読んだ、世界的ベストセラー。

マッキンゼー出身の世界的コンサルタントであるトム・ピーターズらが

「超優良」とはなにかを探究した、全ビジネスマン必読の書です。

他の会社ではやっていないが、超優良企業でやっていることはなんなのか？

永遠に成長し続ける組織を創るための、「超優良企業8つの条件」を提示します。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/t6VNwm>

『プロフェッショナルマネジャー』

著者：ハロルド・ジェニーン

内容：

かつての巨大コングロマリット米ITTの社長兼CEO（最高経営責任者）として58四半期連続増益を遂げたハロルド・ジェニーン氏の経営論。経営の教科書にしている柳井正ファーストリテイリング会長兼CEOが解説を加える。

ジェニーン氏は「本を読む時は、初めから終わりへと読む。ビジネスの経営はそれとは逆だ。終わりから始めて、そこへ到達するためにできる限りのことをする」と説く。同氏はITTで、どんな状況でも収益を年に10~15%増やすことを目標とし、実現した。現実的な目的を定めることで、そのゴールに行き着くためにすべきことがはっきりする。自分は何をやりたいのかをしっかりと見定め、それをやり始めることが重要だと強調する。

ITTでは基本ポリシーの1つとして、「びっくりさせるな！（ノー・サプライズ）」と説いた。企業でびっくりさせられることはほとんどが良くないことである。問題を発見し対処するのが早いほど解決は容易になる。手遅れにならないうちに状況に対処することが重要だ。「トップマネジメントが当然すべき仕事をしながら机の上をきれいにしておくことは不可能」「企業家精神は大きな公開会社の哲学とは相反する」など、独自の視点で興味深い。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sZa7NN>

『経営者の条件』

著者：ドラッカー

内容：

経営学を創始しかつ確立した経営学者、ピーター・F・ドラッカーの経営書の3大古典のひとつの最新訳。組織の全員がエグゼクティブのように働くべきことを説く、万人のための帝王学。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/ugKr9h>

『競争の戦略』

著者：M・E・ポーター

内容：

経営戦略論のグローバルスタンダード。

産業が違い、国が違っても競争戦略の基本原理は変わらない。

戦略論の古典としてロングセラーを続けるポーター教授の傑作。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rH2q08>

『経営論語』

著者：渋沢栄一

内容：

明治初期、大蔵省のエリート官僚だった渋沢が「明治の三傑」西郷・大久保・木戸をはじめ、伊藤博文、大隈重信ら政界トップと渡り合う様子や岩崎弥太郎とのいさかいなど、官を辞してからの財界におけるさまざまなシーンと共に、こよなく愛した「論語の言葉」を解説。渋沢による貴重な自著。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/sPvAm3>

『すごい会議』

著者：大橋禅太郎

内容：

「すごい会議」のやり方で、あなたの会社は劇的に変わる！
ユダヤ人マネジメントコーチ・ハワード・ゴールドマンにより開発された「すごい会議」のやり方は、ヤフー、アップル、NEC、Hewlett-Packard、アメリカン・エクスプレス、P&G、モルガン・スタンレー、アクセンチュアなど、世界中の元気な会社で採用されている。

「すごい会議」のやり方を読むと、

- ・会議での話し方、聞き方が変わる
- ・問題の解決のしかたが変わる
- ・意志決定の方法が明確になる
- ・各自がなにをやるのかがはっきりわかるようになる

そして、会社全体が短期間に進化し、業績がアップする。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/16SKMV9>



14. ストーリーテリングのおすすめ本

『神話の法則』

著者：クリストファー・ボグラ

内容：

シナリオ・テクニクの世界的なベストセラー! 「ライタース・ジャーニー」日本語版。本書は心理学の巨匠カール・G・ユングと「ヒーローズ・ジャーニー」のジョーゼフ・キャンベルの深遠なるコンセプトを発展させた人生という旅のガイドブックでもある。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tzWxHg>

『千の顔を持つ英雄』

著者：クリストファー・ボグラ

内容：

英雄神話の諸相を豊富な例を挙げて解説した本書は、キャンベルの数多い著作の中でも代表作と目されていて、物語を紡ぐ者だけではなく、それを愛する人々にとっても必読の書である。キャンベルの著作を通じて、物語の背景にある神話的原型を知ることによって、さまざまな物語をより深く楽しむことができるし、人生における神話の意味（生きるよすがとしての神話）を自覚することによって、より豊かな人生を送ることができるかもしれない。こう書くと大げさな感じもするが、実際に信仰に代わるものとして物語を心の支えにして生きている人は、結構多いのではないだろうか。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/toJNiE>

15. マーケティングのおすすめ本

『ハイパワー・マーケティング』

著者：ジェイ・エイブラハム

内容：

伝説のマーケティング・バイブル。

米国トップコンサルタントであるジェイ・エイブラハムが、そのマーケティングの極意を書き記しました。業界を制圧し、他社を圧倒的なパワーで凌駕するノウハウが、豊富な事例と共に説かれる。

卓越の戦略、アップセル／クロスセル、USP、先制のマーケティング、リスク・リバーサル、BTRF、A/B スプリット、紹介システム、ジョイント・ベンチャー……すべてはこの1冊から始まった！

IBM・シティバンク・マイクロソフトなど全米400社以上の有力企業のマーケティング・コンサルタントを務めた著者による、少ない元手で高収益を達成する具体的なアクションの仕方と成功事例を説いています。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/vYNkaC>

『影響力の武器』

著者：ロバート・B・チャルディーニ

内容：

「ふとした隙につけこまれ、あれよ、あれよという間に欲しくもないものを買わされてしまった」「ひっかかるはずのない怪しい〈儲け話〉に乗せられてしまった」「人気商品なのに品薄なことが多い……」などなど。本書の著者は、街頭や個別の訪問販売、怪しげな宗教の寄付などで苦い思いを味わった経験から、セールスマンや広告主の世界に入り込み、人がどのような心理的メカニズムで動かされるのか解明した。第二版では、世界各地の読者から寄せられたレポートを追加し、より身近に詳しく「影響力の武器」を描き出す。消費者心理のからくりをユーモラスに描いた、セールスマンにとっても消費者にとっても必読の一冊。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/rt0gNS>

『90日でああなたの会社が儲かる』

著者：神田昌典

内容：

無駄に時間をかけず、売り上げを飛躍的に伸ばすマーケティング法とは何か？それは、マーケティングの従来常識である「お客様主体の営業」から、「営業側主体の営業」へ転換することである。

お客様主体の営業とは、商品を見極め、きっと買ってくれるであろう客に必ず対応することだ。駄目だったらまた次の客を探し出す。しかしこれではコストがかかるうえになかなか利益に結びつかない。

一方、営業側主体の営業とは、商品を買う際、客自らが店を探し出し、買わせてくれと言わせる方法である。これを、エモーショナル・マーケティングと呼ぶ。つまり、客のエモーション（感情）を知り、相手の反応を誘発させることによってこの現象を作り出す。

この本を手にとった人は、客をどのように生み出し、利益を生み、営業効率を飛躍的に上げるかというエモーショナル・マーケティングの具体的なメカニズムを知ることになる。一度読めば、いつの間にかその魅力に引き込まれている自分に気づくだろう。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/t7qOk0>

『ザ・コピーライティング』

著者：ジョン・ケープルス

内容：

76年読み継がれてきた伝説のバイブルがついに登場！「広告の父」デビッド・オグルヴィは、自らも本書で学び、「この本は間違いなく、いままで1番役に立つ本だ」と絶賛する。本書は、58年間、アメリカの広告業界で伝説的コピーライターとして活躍し続けたジョン・ケープルズが、実証的かつ即効性のある

「科学的広告」ノウハウを明かしたものの。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/vlh5X2>

『フリー ～<無料>からお金を生み出す新戦略』

著者：クリス・アンダーソン

内容：

「世界的ベストセラー『ロングテール』の著者が描く 21 世紀の経済モデル」
「〈フリーミアム〉という新しいビジネスモデルを提唱し、ビット世界の無料経済に正面から取り組んだニューヨーク・タイムズ・ベストセラー」
なぜ、一番人気のあるコンテンツを有料にしていけないのか？
なぜ、ビット経済では 95 パーセントをタダにしてもビジネスが可能なのか？
あなたがどの業界にいようと、〈無料〉との競争が待っている。
それは可能性の問題ではなく、時間の問題だ。
そのときあなたは、創造的にも破壊的にもなり得る。
このフリーという過激な価格を味方につけることができるだろうか？
詳細はこちら→ <http://amzn.to/tVKyql>

『究極のセールスマシン』

著者：チェット・ホームズ

内容：

「業績向上の最高権威」と呼ばれる伝説のコンサルタントが解き明かす、市場支配のための 12 の戦略。
時間管理術、会議、人材採用、セールス、マーケティング・・・・・・・・
企業の隅々にまで大きな変革をもたらし、企業を、常に利益を上げ続ける
「究極のセールスマシン」へと生まれ変らせる 1 冊。
詳細はこちら→ <http://amzn.to/vR9XN9>

16. プレゼンテーションのおすすめ本

『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン

—人々を惹きつける 18 の法則』

著者：スティーブ・ジョブズ

内容：

スティーブ・ジョブズのプレゼンの魅力を解き明かす！

アップル CEO のスティーブ・ジョブズのプレゼンテーションは、なぜあれほど人々を魅了し、熱狂させるのか。

本書は、iPhone 発表時などスティーブ・ジョブズの伝説のプレゼンを紹介しながら、その秘密を詳しく解説していきます。

専門用語を使わない、ツイッターのように短い一文で製品やサービスを表わす、ポイントを3つにする、ヒーローと敵役を登場させる、ひたすら練習を積むなど、スティーブ・ジョブズのプレゼンの法則を解き明かします。

すばらしいプレゼンができるようになります！

詳細はこちら→ <http://amzn.to/tHYXU6>

『シンプル・プレゼン』

著者：ガー・レイノルズ

内容：

ビジネスパーソンはもちろん、教師、研究者、医師、技術者など、プレゼンをする機会のある全ての人に送る決定本です。

「Zen(禅)」との融合でジョブズを超える。“伝説の講義”を収録した本邦初公開の映像(DVD80分)と“ビジュアルブック”で、世界最新のメソッドとテクニックをあますところなく“体感”して習得することができます。

プレゼンテーションをする方には、絶対に読んでほしい一冊です。

詳細はこちら→ <http://amzn.to/1CcRkJ4>

最後に

「速読講師が選ぶ人生を変える 100 冊の本」は、いかがでしたでしょうか？

ここまで読んでいただいた感度の高いあなたであれば、きっと新たな気づきを得られたことだと思います。

私たちがこれまでに触れてきた書物が、あなたの人生を変えるきっかけになれば、本当に嬉しいです。

100 冊の本の中には、すでに読んだことのある本もあるかもしれません。

ただ、ここで紹介させていただいた本は、何度も読む価値のある本を厳選させていただいています。

もし一度、読んだことのある本でも、2回、3回と繰り返し読むことで、また新たな気づきを得ることだと思います。

また、まだ読んだことのない本は、ぜひ、読んでみてくださいね。

すべてお勧めの書籍です。

それぞれのジャンルで非常に興味深い内容の本を厳選していますので、楽しみながら読んでみてくださいね。

それでは、最後までお読みいただき本当にありがとうございました。

これからも、あなたに素晴らしい本との出会いがありますように。

ありがとうございました。

速読の学校 講師&スタッフ一同